

## β遮断薬の有用性を考える

# 高血圧から心不全への進展過程において いつ、どこでβ遮断薬を使用すればよいか



John M. Cruickshank, M.D.  
Cambridge University, U.K.

2007年11月の米国心臓協会年次学術集会（フロリダ州オーランド）開催中に、表題のセミナー（司会：山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学教授・松崎益徳氏）が開かれた。特別講演を行ったJohn M. Cruickshank氏は、降圧治療に伴う冠動脈疾患の「Jカーブ現象」の提唱者として知られる。本講演においては、高血圧から心不全への進展過程におけるβ遮断薬の有用性を様々なデータに基づいて論じ、降圧薬としての重要性が他の降圧薬に劣らないことを強調した。特別講演に続き、日本の循環器領域のエキスパートとの間で質疑応答が行われた。ここでは、本セミナーの特別講演と討論の概要を紹介する。



松崎益徳氏（司会）  
山口大学大学院医学系研究科  
器官病態内科学教授



北風政史氏  
国立循環器病センター  
心臓血管内科部長



小室一成氏  
千葉大学大学院医学研究院  
循環病態医学教授



斎藤能彦氏  
奈良県立医科大学  
第1内科学教室教授



筒井裕之氏  
北海道大学大学院医学研究科  
循環病態内科学教授



室原豊明氏  
名古屋大学大学院医学系  
研究科循環器内科学教授



山科章氏  
東京医科大学  
第二内科教授



吉村道博氏  
東京慈恵会医科大学  
循環器内科教授

（五十音順、司会除く）